新潟・浦廻（うらまわり）遺跡

1 所在地　新潟県白根市大字戸頭字浦廻
2 調査期間　二〇〇一年（平13）七月～八月
3 発掘機関　㈶新潟県埋蔵文化財調査事業団
4 調査担当者　澤田　敦
5 遺跡の種類　遺物散布地
6 遺跡の年代　中世
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本遺跡は信濃川の支流である中之口川が形成した自然堤防とその後背湿地の接点に位置する。現況は平坦な水田地帯であるが、近世の絵図類では後背湿地の部分に潟湖が描かれ、潟湖どうしが自然流路で結ばれているものもある。調査地点はこうした中小潟の一つ道潟の潟端か自然流路に接していたと思われる。国道八号線白根バイパスの試掘調査で発見された。

（新　津）

周辺で遺跡は確認されていないが、道潟の対岸には中世の木簡が一〇〇点以上出土した馬場屋敷遺跡が所在する（本誌七号）。本遺跡から北約一・五㎞に現存する「蓑口」の地名は、青海荘という荘園の遺称地であり周辺は中世にすでに開発されていたと考えられる。

出土遺物は、箸状木製品二一点、火錐棒・刀状木製品二点、杓子形木製品・漆器片一点、多数の板や部材など木製品が多く、土器類は見られない。流されてきたか、水辺の行為にともなう遺物であろう。他に女性の人頭骨が特徴的である。試掘を受けて二〇〇二年度に本調査が行なわれているが、木製品とともに獣骨・人骨が多く出土している。京都や平泉における中世庶民の葬送が川に流すという状況であったとする調査成果を考慮すると、中世の葬送に関係する遺跡という可能性もある（鎌倉遺跡調査会『シンポジュウム　都市民―その死のあつかい　資料集』二〇〇二年）。

木簡四点を含め、遺物はすべて包含層からの出土である。包含層は粘土を中心とする土層で砂や葦などの植物遺体なども混じる。土層観察からも水に接する立地が次第に離水していったことが報告されている。木簡四点は同一の土層から出土した。火錐棒・両端に直径二㎜ほどの穿孔のある木材・前述した刀状木製品のような祭祀具・杓子形木製品のような日常生活具など、多くの木製品が共伴する。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「𑖀南無□□□□〔阿弥陀仏ヵ〕」　282×27×1.5　061

(2)　「𑖀南無阿弥陀仏」　261×30×3　061

(3)　・「軽於汝等汝等皆当作仏故四衆之中×
　　・「瞋恚心不浄者悪口罵詈言是無智比丘×　(152)　×13×1　019

(4)　「𑖀南无大日如来　(254)　×35×1　061

(1)(2)(4)は卒塔婆で、(3)は柿経である。

(1)は圭頭状の上端部から下端部に向かって次第に幅を狭める。上半分は右にやや湾曲する。薄く脆弱で、縦にひびがはいる。裏面は調整を施していないが、表面は劣化が著しく判然としない。墨痕は残りが悪く、明確に読めるのは梵字と「南無」くらいである。

(2)は完形で、上端部を圭頭形に整え、下端部を尖らせている。木簡の裏面が上、表面が下という状況で出土した。調整は表裏ともに確認できる。表面が土に密着していたため、墨痕も非常に明瞭である。文字内容は梵字とその下の名号が相違する。𑖀が金剛界大日如来を示すのに対して、「南無阿弥陀仏」と異なる名号が記されている。加茂市舞臺遺跡出土木簡では「𑖀南無大日如来」と記され、本木簡と逆の記載内容となっている（本誌第一九号）。舞臺遺跡も青海荘の荘域内であり、関連性が注目される。

(3)は上端部を五輪塔を模したように形作る。下端部は真横に折られており二文字分ほど欠損するか。厚さも一定ではなく上端部は一㎜あるが、次第に薄くなり下端部では〇・五㎜ほどになる。調整の痕跡は表裏とも不明確。墨痕は比較的明瞭。内容は『妙法蓮華経』常不軽菩薩品第二十である。本木簡に見られる「故」の字が、『大正新修大蔵経』には見られないが、岩波文庫本『法華経』（下）では入っている。文字数は表面の現状は一五文字であるが、裏面との関係から「有生」の二文字を補えば、一般的な一七文字となる。五輪塔を模したような形状や下端部が尖らずに両面墨書が行われている点などから、松浦五輪美・原田憲二郎氏らの編年のⅡ期に当たり一三世紀前半～一四世紀後半頃の時期に相当すると思われる（松浦・原田「柿経の考察――分類と編年について――」『奈良市埋蔵文化財センター紀要　一九九二』）。五輪塔が明確ではない点を重視すれば少し新しくなる可能性もあるが、氏らの編年によれば両面墨書が一四世紀を下らないことはほぼ確実である。

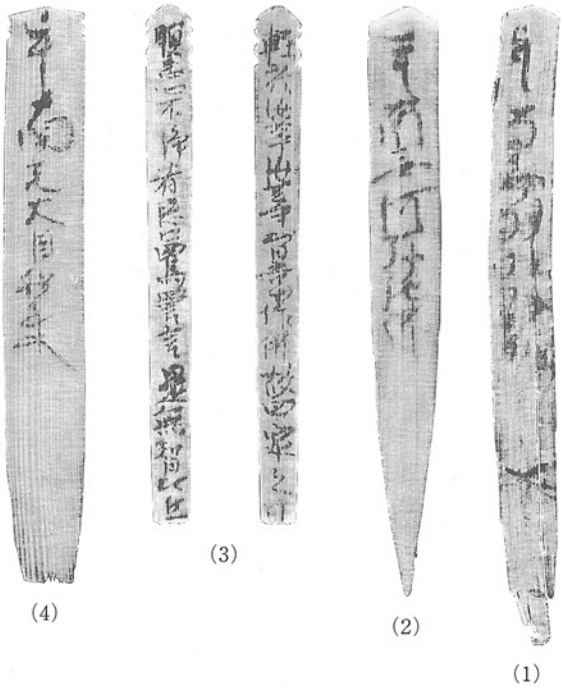
(4)は上端部に両側から二段の切り込みを入れる。下端部は次第に細くなるが欠損している。表面のみに調整がなされており、裏面に墨痕は見られない。墨痕は比較的明瞭に残る。類例が山形県後田遺跡で出土しており（本誌第一九号）、それが一二世紀末～一四世紀を

中心とされているので、時期的にも近く注目される。

9　関係文献

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成一三年度』(二〇〇二年)

(田中一穂)



(1)　(2)　(3)　(4)

新潟・船戸桜田遺跡

1　所在地　新潟県北蒲原郡中条町船戸

2　調査期間　第五次調査　二〇〇一年(平13)四月～五月

3　発掘機関　中条町教育委員会

4　調査担当者　吉村光彦

5　遺跡の種類　官衙関連遺跡

6　遺跡の年代　八世紀～一〇世紀

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

船戸桜田遺跡は、塩津潟に流れ込む船戸川流域に立地する集落跡である。今回の調査は幅三mの調査区であったが、木簡が出土した第二次・四次調査地点(本誌第二一・二三号)の上流にあたる川跡を確認した。

川跡からは、少量の須恵器・土師器と、多数の木製品が出土した。木製品は、一点の漆器盤、一五点の盤、櫛や曲物、火鑽棒などがある。木簡も川跡から出土し

(中　条)